

ヘリコバクターピロリ抗体検査を健診に取り入れて

田中 かおり¹⁾ 白子 順子^{1) 2)}
笠井 里佳子¹⁾ 中安 規絵¹⁾
前田 美保子¹⁾ 谷口 美幸¹⁾
木下 泰子¹⁾ 上野 はな江¹⁾
住奥 幸世¹⁾ 今井 奨²⁾ 高田 淳²⁾

1) 高山赤十字病院 健診センター

2) 高山赤十字病院 内科

I. はじめに

ヘリコバクターピロリ感染胃炎は胃がんと関連があると言われ、除菌治療が推奨されるなど健診受診者の関心も高くなっている。このため当院健診センターでは2017年4月から血清抗H.pylori IgG抗体検査(以下ピロリ抗体検査)をオプション導入した。より多くの受診者に検査を受けてもらえるようピロリ抗体検査について事前に案内し、健診センター内でもパンフレットやポスターを使用して啓発した。また、健診時の上部消化管内視鏡検査の所見でピロリ感染が疑われれば、検査施行医からピロリ抗体検査の測定を勧めた。

II. 結果

2017年度の当院健診受診者総数6833名のうち、ピロリ抗体検査測定者は532名(受診者総数のうち7.8%)で、男性250名(平均年齢54.4歳)、女性282名(平均年齢51.8歳)であった。要精検者数は162名(要精検率30.5%)であり、ヘリコバクターピロリ菌の除菌治療を行ったものは124名(除菌治療率76.5%)であった。除菌治療の受診医療機関の内訳は当院消化器内科89名、他院42名であった。医療機関に受診したが未除菌の者は7名であり、その背景としてその他の疾患治療を優先する者、医師の判断にて治療不要の者がいた。また、未受診者や不明は31名であり、何らかの理由で除菌治療を受けない、あるいは年度末の受診者では健診結果が出て間もないため未受診であることが考えられる。

III. おわりに

ピロリ抗体検査導入により、陽性者を健診で拾い上げて除菌治療に結びつけることができた。現在の症状や既往歴、家族病歴を踏まえアセスメントし、今後はさらに多くの受診者にピロリ抗体検査を勧めていきたい。さらには、除菌後の経過年数や胃カメラ検査歴など把握し、胃がん予防や早期発見に寄与できるようよりきめ細かな健診を目指していきたい。

キーワード：ピロリ抗体検査、ヘリコバクターピロリ菌、除菌治療